



華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

クールリブラ

講座

カジのうら若き青春黙示録

文/カジ

いよいよスタート恋愛編！

もはや「華麗なる図書館利用者のため」などという大義名分はとっくに破綻しているが、それはそれ、これはこれ。思ひ出話は同窓会でやれよという声もなんのその。カジのカジによるカジのための作文、それがクールリブラ。もうしばらくお付き合いください。

あいつもこいつもあの席をただ一つ狙ってゐるんだよ
このクラスで一番の美人の隣を〜 (by fingers)

中学1年の頃のカジは、学校に行くのが大嫌いだ。嫌いというより行く意味がわからない、そんな風に思っていた。その根底にあったものは『自由になりたい』という漠然とした尾崎豊的思考が半分と、『ボンキッキが観たい』という幼児的思考が半分。授業で習うことは教科書に書いてあるんだから、読んどけばいいじゃんってな風に考えていた。3学期になると自由を求める気持ちがより強くなり、ちよいちよい学校を休むようになっていた。学校休んでボンキッキ、学校休んでボンキッキ。絵に描いたようなダメ人間つぶりだ。

「2年7組女子12番 峰澤千絵(仮名)」

みねざわ ちえ

ダメ人間にも春はやってくる。春休み明けの4月某日、自分のクラスぐらいは確認するかということで、重い足を引きずって学校へ。校内掲示板には各クラスの名簿が貼り出され、生徒たちが一言一憂している。とりあえず1組から順に確認していくことに。1組なし、2組なし、3組、4組…6組まで来たがカジの名前はまだない。自分の名前がないのでは？と心配になった頃、ようやく発見。

「2年7組男子12番カジ」
おお、こんなところにいたのかと安堵した瞬間、瞳の中の水晶体のザラっとした部分に突き刺さるように、そいつは飛び込んできた！

その文字はうら若きカジ少年の心に7G (1G=9.8m/s²)ほどの衝撃を与えた。峰澤さんといえば、成績優秀スポーツ万能品行方正風光明媚かつ超絶美人、いわゆる学園のアイドル的存在なのだ。そんな峰澤さんと同じクラスでしかも出席番号が同じ↓いきなり隣の席↓教科書忘れて一緒に見る↓仲良くなる↓なんやかんやで恋に落ちる、という風が吹けば桶屋が儲かる的な発想が一瞬で頭をよぎった。後半の「なんやかんやで」とにかく当時あまり目立たない隠れキヤラのマイノリティ生徒だったカジにとつて、願ってもないチャンスが訪れたことには違いなかった。そしてこの日を境にカジ少年の通学マインドは一変。起こるわけもない「なんやかんや」を遥かに見据え、軽やかなステップで2年7組の教室へと向かう日々が幕を明けようとしていた。

ご意見・ご感想はこちらへ (学園のアイドルの情報もぜひ！)
coolibrar@hotmail.co.jp

